



第4回 空港アクセス検討委員会資料

令和4年2月8日（火）

熊本県企画振興部交通政策・情報局
交通政策課

【報告事項】 令和2年度調査結果の課題への対応状況

令和2年度調査結果（三里木ルート）

（需要予測）

鉄道利用者 = 5,000人/日（うち中間駅利用者400人/日）

※令和元年度調査結果 7,500人/日（うち中間駅利用者2,700人/日）

（事業採算性）

現行補助制度（補助対象事業費の18%の国補助）の場合には、40年以内の黒字化には至らず。

第3回空港アクセス検討委員会（R3.7.15開催）における指摘事項

課題① 財源確保に向けた取組み

⇒引き続き、財源の不透明さを払拭する取組みが必要。

課題② 鉄道利用者数を増やす取組み

⇒持続可能な経営のため、周辺地域の開発や、利便性の向上など、鉄道利用者を増やす取組みの検討が不可欠。

課題① 財源確保に向けた取組みの検討状況

熊本県から、国への施策等に関する提案・要望の実施（R3.10）

国土交通省に対し、今後、検討を進め、具体的な整備方針案を決定した場合には、平成28年熊本地震からの創造的復興・地方創生の実現のため、**整備費の3分の1の財政支援**をいただくなど特別な配慮を要望。

斉藤国土交通大臣と知事との意見交換 知事発言抜粋（R3.11）

※令和2年7月豪雨により被災した球磨川視察時

- 本県への世界的な半導体企業、TSMCが熊本に進出することと合わせて、本県が検討を進める空港アクセス鉄道への期待も更に高まっている。
- 国土交通省におかれても、空港アクセス鉄道の整備に向けた取組みへの格段の支援をお願いしたい。

この他、国土交通省、環境省等に個別に説明を行い、計画への理解を求めている。今後も継続して支援を要請する。

課題② 鉄道利用者数を増やす取組みの検討

阿蘇くまもと空港アクセス鉄道 三里木ルート取組み案

第3回検討委員会で出された意見

- 空港から熊本市中心部まで**2回の乗換**(三里木駅、新水前寺駅)が必要。
- 新水前寺駅は現状でも市電やバスへ乗換える際に**積み残し**が発生している。
- 駅からの**バスの運行等、他モードと連携**することが必要。
- 鉄道沿線の開発**を行うことにより、**需要の増加**が期待される。

考えられる取組み

鉄道利便性向上

- 相互直通運転
- 分割・併合
- 快速運転

交通結節強化

- 新駅、既存駅における**鉄道とバスの結節強化**

開発

- 沿線開発

課題② 鉄道利用者数を増やす取組みの検討 (事例紹介) 仙台空港アクセス鉄道 概要

概要

●開業年度

H19.3

●新線区間

JR東北本線名取駅⇔仙台空港駅 約7.1km

●駅数

3駅(仙台空港駅からJR名取駅まで途中「中間駅」2駅)

●総事業費

330億円

●適用制度

ニュータウン鉄道等整備事業費補助
(現在の空港アクセス鉄道等整備事業費補助)
(国庫補助率)
補助対象事業費の18%

●主な出資者

宮城県、仙台市、名取市、岩沼市、東日本旅客鉄道(株)、(公財)宮城県市町村振興協会、東北電力(株)、仙台国際空港(株)、(株)七十七銀行ほか全114団体



出典: 美田園町内会ホームページ

施策

1. 鉄道利便性の向上

相互直通運転+快速運転
(JR仙台駅⇔仙台空港)

車、バス利用: 40分⇒鉄道(快速)17分

23分短縮



2. 沿線開発

「名とりりんくうタウン」(分譲開始: H19.3)

○社せきのした駅: 大型商業施設

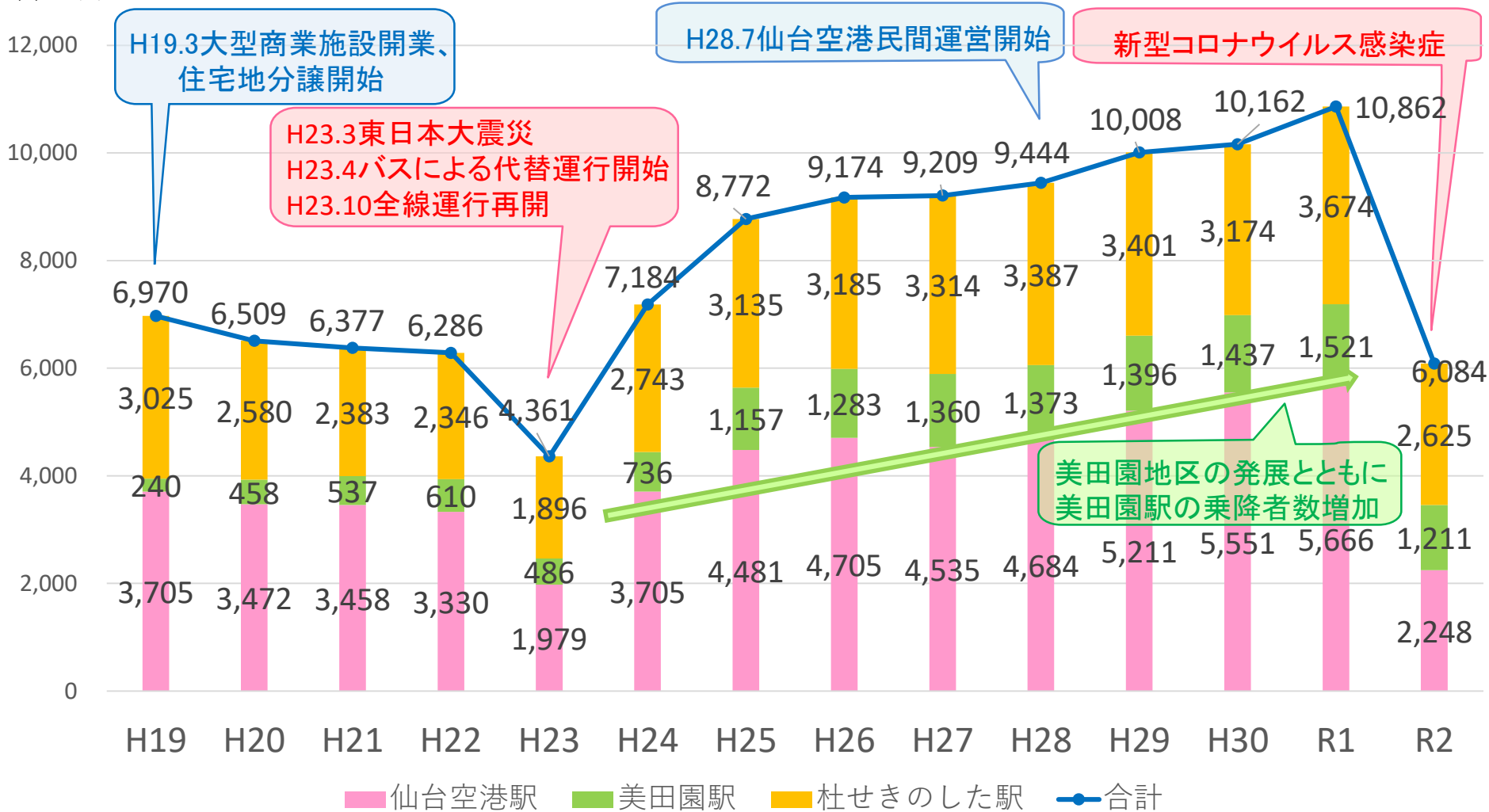
○美田園駅: 住宅地、教育・福祉複合施設

課題② 鉄道利用者数を増やす取組みの検討

(事例紹介) 仙台空港アクセス鉄道 利用者数の推移

仙台空港アクセス鉄道 1日当たりの利用者

単位：人

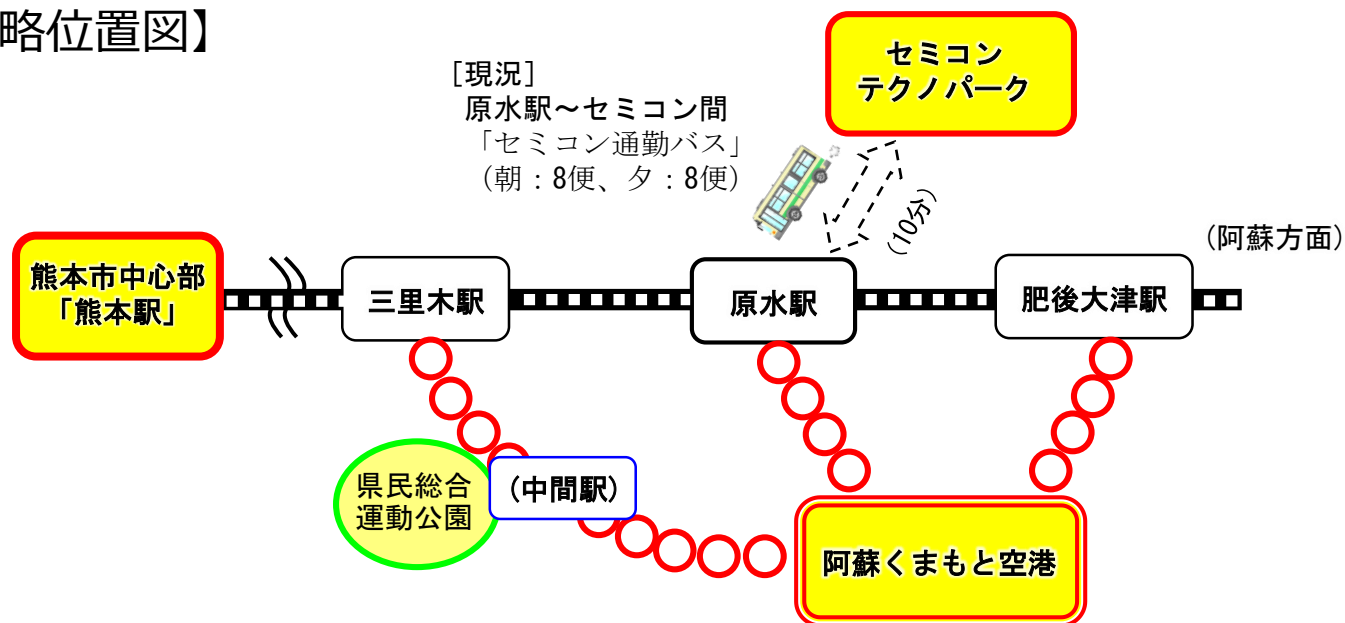


【議事】 ルートの追加検討について

ルートの追加検討概要（令和3年11月定例会）

- 台湾の世界最大手半導体企業T S M Cが、菊陽町（セミコンテックパーク隣接）に進出することが決定（設備投資額約8,000億円、雇用創出約1,500人）。
- セミコンテックパークへのアクセス向上、さらには、県内全域の交通ネットワークの利便性向上につながるよう、「原水ルート」「肥後大津ルート」についても調査を実施し、より効率的で効果の高いルートについて、比較検討を行う。（令和4年中に調査結果報告予定）

【概略位置図】



県議会（11月定例会）の状況

令和3年11月定例会本会議 知事議案説明要旨（追加調査方針表明）

- 空港アクセス鉄道については、TSMCの立地決定を踏まえ、豊肥本線の輸送力増強によるセミコンテクノパークへのアクセス向上、さらには、県内全域の交通ネットワークの利便性向上につながるよう、現在の三里木ルート案のみならず、より効率的で効果の高いルートについてスピード感をもって検討して参る。

令和3年11月定例会本会議 知事答弁（追加調査方針表明）

- T S M Cの進出や今後想定される関連企業の更なる集積により、空港を含め、人や物の流れが大きく変化。これらを踏まえ、空港周辺地域の可能性を最大化するため、ハード・ソフトの両面から対策を講じていく必要がある。
- 空港アクセス鉄道についても、豊肥本線の輸送力増強によるセミコンテクノへのアクセス向上、さらには、県内全域の交通ネットワークの利便性向上につなげることを目指し、三里木ルートに加え、「原水ルート」「肥後大津ルート」についても追加調査を実施。

令和3年12月14日高速交通ネットワーク整備推進特別委員会 委員発言抜粋

- TSMCは、本県における過去最大のインパクトがある企業進出。空港アクセス鉄道の検討においてTSMCを考慮しない方がおかしい。将来に禍根を残さないようスピード感を持ってしっかり検討してほしい。
(企画振興部長)：これまで1年以上かかった調査期間を可能な限り短縮し、来年（令和4年）には必ず調査結果を報告したい
- TSMCの進出により、従業員が増えることで、JR豊肥本線の利用者は増えるかと思うが、空港利用者がどれだけ増えるかは疑問。
- 空港利用者のための空港アクセス鉄道という視点がずれないように検討してほしい。
- 2つのルートを追加する理由をしっかりと、県民に説明していただきたい。
- 仮に三里木ルート以外となり、中間駅を設置しない場合も、県民総合運動公園のアクセス改善は、検討をしていただきたい。

<参考>

半導体産業の集積強化に係る推進本部及び部会の設置について

- TSMC の熊本への日本初の工場建設決定を踏まえ、新工場の円滑な建設・稼働の推進と、更なる半導体産業の集積による県政の浮揚を図るため、11月18日に知事をトップとする「半導体産業集積強化推進本部」等を設置。
- さらに、想定される課題解決に向けて迅速かつ、きめ細やかに対応するため、下記のとおり、5つの部会を設置。

部会名	検討項目
人材育成・確保部会	大学、技大、高専、高校を含む幅広い人材育成の取組みや、U I J ターンの推進などの人材確保等を図る。
渋滞・交通アクセス対策部会	セミコンテックパーク周辺の渋滞解消及び、当該地域への交通アクセスの向上を図る。
国際交流部会	自治体・民間での国際交流を推進し、台湾とのビジネス交流の展開並びに多文化共生社会の実現を図る。
教育環境部会	海外から移住する技術者の家族について、教育機会の確保を図る。
熊本PR部会	国内外に向けて、幅広く熊本をPRし、認知度を高めることで人材や企業の集積等につなげる。